

# 人の親の心は闇にあらねども 子を思う道にまどひぬるかな

藤原兼輔

裏面もご覧ください。

六月  
生命の言葉

親の心は夜の闇ではない。しかし、子ども  
のことを思うと、まっくらな闇を進む  
ように、迷い、途方に暮れるばかりである。

『後撰集』

藤原兼輔 (ふじわらかねすけ)

八七七〜九三三年。平安時代の歌人。三十六歌仙  
の一人。紫式部の曾祖父。賀茂川堤の近くに住んで  
いたことから堤中納言と呼ばれた。この歌は娘・桑  
子が醍醐天皇に嫁いだ後の心配でならない心を詠  
んだもの。いつの時代も子を思い、悩む親の心は変  
わらないものである。

蛍の光が美しいこの季節 皆さまに神のご加護がありますように

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮